



ついで 筒井 直人くん(5さい) 古宮 眞人くん(0さい) 眞人くん(0さい) 優香ちゃん(3さい)

「たくさんのお友達ができますように！」
(お父さん・お母さんより)

このコーナーに出てください「わんぱくはりまっ子」を募集しています。
(3歳・5歳対象) 広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもけっこうです。



たくさんのごちそうでお腹いっぱい

園庭の梅や彼岸桜の花が春の訪れを告げる三月一日、幼稚園ではひな祭り会がありました。
「皆が元気で大きくなりますように」と願いながら、ひな祭りについて

「わあー、このおにぎり、あんなマンヤ」「お団子のおにぎりもある。おいしいね」と話し、友達とニコニコしながら食べていました。たくさんのごちそうでお腹いっぱいになり、大満足の子どもたちでした。

降園の時に、ひなあられと自分で作ったひな人形を大事に持って帰った子どもたち、家でも楽しい話が続いたことでしょう。

明かりをつけましょ、ぼんぼりの歌声に誘われて、園庭のマルムシヤカエルも目を覚ましたようです。

年長さんはもうすぐ卒園。幼稚園での楽しかったことをいつまでも忘れないでね。



部の名誉をかけて

総合の部	
男子	女子
一位 陸上部	一位 陸上部
二位 バスケットボール部A	二位 ソフトテニス部A
三位 野球部	三位 バドミントン部
区間賞	
第1区 男子 4.5分 江藤 直也(野球部)	第1区 女子 3分 藤原 麻衣(陸上部)
第2区 男子 3分 室田 裕信(陸上部)	第2区 女子 1.5分 中山 博子(陸上部)
第3区 男子 1.5分 安東 洋希(陸上部)	第3区 女子 1分 村津 裕美(ソフトテニス部)
第4区 男子 4.5分 池田 義章(陸上部)	第4区 女子 3分 上田 麻実(陸上部)
第5区 男子 3分 中下 貴博(陸上部)	第5区 女子 2分 藤原 加奈子(バドミントン部)

きゅんぱすだより

みんなで作る楽しい劇遊び

お日様の光が優しくなり、春の訪れを感じます。園庭の木の芽も膨らみ、あちこちで梅の花もかわいく咲き始めています。春を待つ心が、ウキウキしてくる季節。

そんな中で、子どもたちは、三月二日に行われる生活発表会に向けて、毎日練習に取り組んでいます。

子どもたちは、「私はカメさん。僕は足の速いウサギさん」と、大張り切りです。初めは人前に出るのも恥ずかしかった子どもが、今ではすっかり大きな声でせりふも言え、歌やダンスで表現を楽しんでいます。

劇遊びの中の歌は、お気に入りの歌の一つとなり、「家でも口ずさんで、踊っています」という声が、お母さんからよく聞かれます。

私たちは、劇遊びを通して、子どもが友達と一緒に作り上げていく喜びや楽しみを感じられるように、側



みんなで練習中

第二回校内活動対抗駅伝大会

二月十六日(土)午後、第二回校内部対抗駅伝大会が、春を思わせる暖かい晴天のもとで行われました。

昨年からはまったこの行事は、基礎トレーニング中心で、ともすればマンネリに陥りがちなシーズンオフ

今年で五年目を迎え、すっかり全校生の中に定着した「土曜ふれあい集会」が、一月十九日(土)に行われました。

この集会は、二年生以上のクラスがそれぞれの種目を考え、手作りで準備し、全校生がチャレンジし、記録を競い合うものです。

プロデュースサークルが企画中心になって進めますが、年々工夫が加えられ、全校生が楽しめるものになってきました。

今年もオープニングを体育館で行い、劇や踊りで集会を盛り上げました。

チャレンジタイムは前半、後半に分かれ、親子で楽しくチャレンジするにぎやかな歓声が、教室のあちこちから聞こえました。

フリスビー・ターゲットやサスケ



お母さんと一緒に

ザ・チャレンジングネス2002

今年で五年目を迎え、すっかり全校生の中に定着した「土曜ふれあい集会」が、一月十九日(土)に行われました。

この集会は、二年生以上のクラスがそれぞれの種目を考え、手作りで準備し、全校生がチャレンジし、記録を競い合うものです。

プロデュースサークルが企画中心になって進めますが、年々工夫が加えられ、全校生が楽しめるものになってきました。

今年もオープニングを体育館で行い、劇や踊りで集会を盛り上げました。

チャレンジタイムは前半、後半に分かれ、親子で楽しくチャレンジするにぎやかな歓声が、教室のあちこちから聞こえました。

フリスビー・ターゲットやサスケ

HOTホット育児をめざして 感性を育てる子育てを

子育て学習センター

二月九日(土)、約九十人の若いお父さんとお母さんの参加のもと、菊川内科・心療内科医院院長の菊川豪先生を迎えて、親学習セミナーを開きました。

講演のテーマは「0歳から7歳までの心の基礎を創る家庭」で、内容を要約すると...

誕生から一・五歳ころまでは抱いて抱いてかわいがってあげることが大切です。

お母さんに抱きしめられた時の温かさ、におい、声の振動を感じる事、ほ乳、おむつの世話をされることにより、子どもは生きている心の芽をもらって、人から愛される心を育てていきます。

一・五歳から三・四歳ころまでは寝られる、うれしい、誇りが芽生える、我慢する...この過程によって忍耐力が芽生えてきます。褒められることにより自信がつき、失敗を恐れない子に育つので

この時期でのお父さんの役割は、母親への精神的な支えとなり、夫婦の絆を大切に育て、協力する事が大切です。

三・四歳ころから脳が発達して、いろいろな事を吸収しようとする時期なので、子どもが「あれなあに。これなあに」と聞いた時、親がきちつと答えてあげましょう。愛してくれている人に褒められることはとてもうれしく、その喜びから分らないことを知ろうとして、好奇心が増えてくるのです。また、寒い川に入った冷たさ、木のとげの痛さなど、自然の中でのいろんな経験を積み機会を多く作り、感性を育てていきましょう。

本当の人生の幸せを得る心を育てるには、集団の中での遊びやルールを通して社会性を養い、心の補完、修正をして、感じる心を十分伸ばすことです。